

エペソ人への手紙6章10-12節 「戦う教会」

1A 圧倒的な征服者キリスト

2A 主にある大能の力 10

3A 悪魔の策略 11

4A 霊の勢力に対する格闘 12

本文

エペソ人への手紙 6 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、6 章前半、9 節まで来ました。午後に 10 節以降を一節ずつ見ていきますが、今朝は、10-12 節に注目します。「¹⁰終わりに言います。主において、その大能の力によって強められなさい。¹¹ 悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。¹² 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。」パウロが、私たちキリスト教会に格闘、戦いがあるのだと教えている箇所です。

教会は、戦う存在であることを教えていることは、あまりないですね。けれども、パウロは手紙の

The church is not a cruise ship where a handful of people serve everyone else who is relaxing.



Photo by Matthew Barra from Pexels

No, the church is a battleship where it's "all hands on deck" and everyone serves the mission.



中で、ここにあるようにはっきりと、戦いがあることを教えています。エペソ人への手紙では、初めに、いかにキリストにおいて、その御座と同じところに座らせていただいているのかを見てきました。キリストにおいて、神の霊的祝福が天上にあることを教えています。それから、4 章から、歩むことについて教えられましたね。それから、従うことについても、前回学びました。それだけではありません、戦うことも教えられています。

今、みなさんがご覧になっている二つの船ですが、教

会がどちらの姿であると思いますか？前者ではなく、後者です。前者は、クルーズ船、豪華客船ですね。ごく一部の人が、圧倒的多数の人々のために仕えますが、乗客はそこで快適に過ごすためにその船に乗っています。これは、教会の姿ではないと教えています。もう一つは、戦艦です。乗組員全員が、直ちに甲板(デッキ)に行く、すなわち直ちに皆が作業に取りかかる船であり、戦う使命を、すべてが帯びています。

1A 圧倒的な征服者キリスト

パウロが、手紙の中で、教会をどのような形で建てているかを説明している部分が、1章の終わりにあります。「1:20-22 この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。22 また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。」キリストが、天上で神の右の座に着かれたのですが、それが、「すべての支配、権威、権力、主権の上に」とあります。聖書は、天のはるか上に、神がおられて、そして自然があるというだけで、この世界を描いていません。支配、権威、権力、主権と呼ばれる、霊的な存在、天使のような存在、また天使そのものが出て、それで今の世界が成り立っていることを教えています。ロマ8章にも、「死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも(38節)」とあり、目に見えないけれども、支配をする力と権威を持っている存在が、あたかも、いろいろな周波数の電波が、今、目の前を行き交っているのに、目に見えないように、私たちの上に、また周りに、支配、権威、権力、主権と呼ばれているものが存在しているのです。

これらが、必ずしも主に仕えている、良い天使だけとは限らないのです。エペソ2章1-2節を読むと、罪の中に死んでいた時には、これらの霊に従っている存在であったことを教えています。「2:1-2 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、2かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。」このようにして、空中に権威を持つ支配者がいて、人々が神に不従順である時に、彼らを自分の欲するままに動かしているのです。

サタンは、コリント第二4章で、「この世の神(4節)」と呼ばれています。そして、ヨハネ第一には、「世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。(5:19)」とあります。ここから、私たちは、壮大な神の歴史、神のご計画の中で、大きな戦いが目に見えないところで繰り広げられていることを知るようになります。神が、天地を造られた時はすべてが非常に良かったのですが、サタンが高ぶったので、天のおるべき領域にすることができなくなり、追い出されました。それが、エデンの園で蛇の姿を取ってエバを惑わし、アダムが罪を犯すことになるのです。アダムに対して神は、ご自身の造られたものを支配しなさいと命じておられましたが、その支配権をアダムは失ってしまいました。サタンに、明け渡してしまったのです。それで、サタンがこの世において支配

権を持ち、全世界がこの悪い者の支配下に入ることになりました。

しかし、神はアダムが罪を犯してからすぐに、女の子孫から、この蛇のかしらを砕く者を起こすことを約束されました。「創 3:15 わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」脳天を打ち砕く方が、女の子孫、すなわちキリストが来られると約束してくださいました。つまり、この方が、サタンに明け渡されてしまった世界を奪還し、神のもとに引き渡されるのです。コロサイ2章には、サタンがその力を失い、サタンの手下どもも、キリストの凱旋の行列で、さらしものにされている姿が描かれています。それは、キリストが私たちのために十字架で死なれ、よみがえられたからです。「コロ 2:15 そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。」

このようなことで、エペソ1章21節にあった、イエス様が、「すべての支配、権威、権力、主権の上に」、あらゆる名の上に、名が置かれたというのは、大きな意味があるのです。神の右の座に、このようにして着かれた方が、教会においてご自身を満たして下さり、ご自分のからだとして下さり、そして、サタンの支配するこの世に攻め入っているということです。これが、私たちの世界の見方であるべきで、またこの世における教会の姿であるべきです。キリストは、この世界にご自分の圧倒的な力と支配をもって、世にいる人々を、ご自分の血によって贖い出され、ご自分の国の中に導き入れています。

ですから、私たちに戦いがあるのですが、それはあくまでも征服者が征服するところの戦いであり、キリストのうちにいる者たちは、初めから勝利が約束されています。戦いというのは、悪の勢力のあがきであります。キリストがその権威をもって支配を広げておられるので、あがいて、反発して、戦いを挑みかかっているのです。イエス様が、会堂で教えておられる時に、汚れた霊のほうがかんで、「ナザレの人イエスよ、私たちと何の関係があるのですか。私たちを滅ぼしに来たのですか。」言って、イエス様が「黙れ、この人から出て行け。」と命じられると、出て行ったのを思い出してください(マルコ 1:21-28)。霊の戦いというのは、キリストにあって私たちが攻め入っているから、敵からの戦いが挑まれているのであり、敵のほうに攻め入っているではありません。ですから、覚えておいてください、私たちに問題が起こったら何か霊的に調子悪いと考えるのは、間違いだということを。霊の攻撃がある時は、後退しているのではなく前進していると考えてください。

2A 主にある大能の力 10

10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。

霊の戦いにおいて大事なことは、強められることです。しかし、それは、自分自身のうちにある強さではないことに気づくことが、最も大事なことです。「**主にあって、その大能の力によって**」強めら

れることに気をつけてください。主にあって強められることについては、パウロはすでに、教会の人々のために、次のように祈っていました。「3:16 どうか御父が、その栄光の豊かさにしたがって、内なる人に働く御霊により、力をもってあなたがたを強めてくださいますように。」父なる神が、その栄光の豊かさにしたがって、私たちの内なる人を強めてくださいます。それは、私たちの肉ではなく、内なる人に働く御霊が、力をもって強めてくださるのです。

私たちの力は、何か私たちが大きなことをするところにある力ではなく、主なる神が御霊によって私たちの内なる人に働きかけてくださるところにあります。つまり、主なる神がどのような方かを人格的に知っているところにある力です。ハーリー・ポッターのような、何か力を自分の内から放つようなものではありません。私が、ある異端カルトに一月の間、はいつてしまった時、サタンの影響から抜け出せなくて苦しんだ経験があります。だれかの助けを受けることは、人間の影響を受けると教えられたので、だれにも相談できないように操作されていました。しかし、自分の教会の祈り会に行ったのです。そこで、ご高齢の姉妹が、一見、弱々しい声で、つたないように聞こえる言葉で、祈られていました。その祈りを聞いた時に、一気に、サタンの影響がさっとなくなっていったのです。何か、どでかい力があるかないか、ではないのです。主を人格的に知っている、その祈りこそが、悪霊を追い出すことができ、悪魔を退けることができるのです。

パウロが言いましたね、自分の肉が弱い時にこそ、強いと。「Ⅱコリ 12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」肉の弱さがあるからこそ、キリストの恵みがそこにあり、そして強められます。

そして、主にある力とは「**その大能の力**」とあるように、大能なのです。「1:19-20 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、」主をよみがえらせたところの力が、ここで言っている大能の力です。私たち、イエスがよみがえったことを信じている者は、神がイエスをよみがえらせた復活の力が働いていることを知らないといけません。それは、たとえ死んでも生きかえる力です。罪と死の法則を打ち破るところの、いのちの御霊の力です。ここで大事なことは、信じることです。自分の力では全くないことに気づくでしょう。むしろ、自分の力というのは、肉に属するものであり、死んで滅びるものです。死んでいるのによみがえらせる力は、自分で振りしぼって出すものではなく、信じて、神が御霊によって働かせるものなのです。アブラハムが、もう 99 歳であるのに、子が与えられると約束されて、それで信じた時に、神がサラに子を与えた力です。

3A 悪魔の策略 11

11 悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に付けなさい。

悪魔に対峙するために、神のすべての武具を身に着けるのですが、この武具については、午後の礼拝でじっくり見ていきたいと思います。パウロが、14 節からじっくり一つ一つ説明するからです。ここで注目したい言葉は、「**悪魔の策略**」ということです。悪魔の特徴は、策略であります。非常に狡猾であり、人を惑わし、だまし、そそのかすことによって、彼自身が人に罪を犯させるのではなく、人が自ら罪を犯すように仕向けるのです。彼は手を出すことなく、しかし、私たちの思いと心に巧みに働きかけます。エバが、蛇に惑わされたときに、蛇が何と言ったかを思い出しましょう。「創 3:1 園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」エバに対して、だれも言っていないことを言ったかのように語りかけているのです。そして、エバはそのまま答えてしまっています。おれおれ詐欺にしても、何にしても、詐欺師に対して、まともに受け答えしてはいけません。でも、エバが受け答えているので、蛇は、そこで「**あなたがたは決して死にません**」と言っています。そのまま、あからさまな嘘をつくのではないのです。欺いていることを分からないようにさせるのです。

聖書には、だまされてはいけないという警告に満ちています。コリントの教会の人たちが、偽使徒たちに騙されていることを、次のようにパウロが心配しています。「Ⅱコリ 11:3 蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔から離れてしまうのではないかと、私は心配しています。」その背後には、サタンの策略があります。「Ⅱコリ 2:11 それは、私たちがサタンに乗じられないようにするためです。私たちはサタンの策略を知らないわけではありません。」正しい使徒のような装いをして、偽使徒たちがコリントにやって来ているのですが、光の御使いとしてサタンは変装することができるとも言っています(同 11:14-15)。サタンが私たちに迫って来る時に、黒い格好をして、黒い矢をもって来るのではなく、光の天使として来るのです。ですから、私たちが偽使徒や偽教師について、警告を発すると、「この人は、これだけ良いことをしているのに、そんなことはない。」として、だまされている人は強く反発します。これが、だましやであるサタンのなせる業なのです。

サタンの策略によって攻撃するのには、理由があります。それは、キリストは圧倒的な勝利者、征服者であり、キリストにつく者も、この方を信じる者も世に勝利しているのです。そのまま戦うのであれば、屈服せざるを得ません。そこで計略を使うのです。ギブオン人が、ヨシュアたちとの戦いで、勝ちようがないことを見て取って、計略を働かせて、自分たちが遠い国からやって来た者たちだから、盟約を結びたいと言ったのを覚えていますか。そのように策略を巡らせて、私たちが立ち向かうことがないようにするのが、サタンの策略です。

サタンは、キリストのうちにある私たちに勝つことはできません。であれば、どうするのか？私たちが、主のうちにいるのではなく、自分自身の肉で反応するように仕向けるのです。自分たちが悪魔に対峙するようにさせます。そうすれば、私たちが肉に反応しているので、自ら罪を犯すようにすることができるのです。預言者バラムのことを思い出してください。モアブの王バラクに雇われて、

イスラエルを呪うように言われました。けれども、主は呪いを祝福にかえられました。イスラエルの宿営は、主が守っておられるので、まじないの呪いなど何も役に立たなかったのです。そこで、バラムは助言しました。彼らのところにミディアン人の娘を送ります。イスラエルの男たちは、その娘たちを自分の天幕に招きます。そして、彼女たちの神々を拝みます。そうやって、主ご自身がイスラエルに神罰を下すようにされたのです。彼らが自分たちが罪を犯す、つまりさせるようにさせたのです。これを、おびきよせ作戦、陽動作戦と呼んだらうでしょうか。そこで次をご覧ください。

4A 霊の勢力に対する格闘 12

12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。

私たちは血肉の戦いをしているのではない、ということです。ここにあるように霊の勢力に対して戦っています。ですから、私たちが肉の領域で戦うように仕向けてくるサタンに対して、肉に反応するのではなく、霊の武器、神の武器をもって対抗するのです。

そこで最も初めに、私たちが行うべきことは、「気づく」ことです。これが、霊の戦いなのだということに気づくことです。肉の戦いではなく、霊の戦いだと気づいたら、自ずと霊の武器を取らなければいけないことを知ります。教会に、また家庭に混乱が起こった時に、私たちは、原因探しをします。対立している相手が敵であるとして、その相手と戦ってしまいます。そのように互いに争うようにすること自体が、サタンに策略であることに気づかないのです。どこかの時点で、「ああ、これは霊の戦いだ」と気づく必要があるのです。

そして気づけば、何ができるでしょうか？二つのことができます。「神に従う」ということ。もう一つは、「悪魔に立ち向かう」ということです。「ヤコブ 4:7 ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」どんなことがあっても、自分を神に従わせるのです。自分が知っているとうぬぼれることなく、ただ神の権威に自分を従わせるのです。そして、悪魔に対抗します。悪魔の言うことを聞かないのです。話しかけもせず、言い返しもしません。ただ退けます。そうすれば、悪魔は逃げ去るのです。

そして、悪魔が立ち去ったことを喜びましょう。主にある勝利をかみしめましょう。主の与えてくださる武器は、かなり強力なものです。「Ⅱコリ 10:4 私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神のために要塞を打ち倒す力があるものです。」要塞をも打ち倒すことができます！

午後礼拝で、どのように戦うかを、パウロは教えていきます。腰には真理、胸には正義、頭には救い、というようにです。神の全ての武具を身に着けますが、最後に行うのは祈りです。聖徒のための執り成しの祈りです。私たちは祈りによって、敵陣に爆弾を落とすことができます。そして、も

う爆撃をした後で、そこ場に出ていき、分捕り物を取るのです。多くの人は、爆撃なしに、そのまま敵陣に行き、猛烈な攻撃を受けます。伝道をして、うまくいかなく、もうだめだと思い込むのです。そうではないのです。一步下がるのです、そして祈りまくるのです。「Ⅱコリ 4:4 彼らの場合は、この世の神が、信じていない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。」どんなに説得しても、悪魔がキリストを見せないようにしているので、見えないのです。ここは霊の領域なのです。だから、祈り、主がその覆いを取り去ってくださるように祈るのです。

祈りましょう、そして主の勝利を見ていきましょう。その経験が多ければ多いほど、私たちは次に戦う時に、これは自分たちの戦いではない、主の戦いなのだと知ることになるのです。だから、もっと祈ります。主が戦ってくださるのですから、主にお問い合わせするのです。そして、主が御力を、私たちに現わしてくださいませ。